

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人佛子園 三草二木西園寺		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年2月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年2月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●一般の温泉利用客、高齢者デイサービス、生活介護、就労支援継続A型B型と同じ場所で過ごすことができる。	障害の有無を感じにくい環境であり、「多様性」「障害特性」に対する理解の幅が広い。声かけの工夫、言い換えに意識し、マイナスな発言にならないように職員が特に意識・配慮している。	多世代との関わりの中で、一緒に取り組める活動(生産活動や製造作業など)があるため、やったことがないことにチャレンジできる。
2	●地域とのコミュニケーション	日常的に地域の住民が行き来する施設であるため、様々な場面で交流や関わりが生まれている。季節の行事(夏祭り、ハロウィン、クリスマスなど)には、地域を巻き込む仕掛けを行い、住民にも協力を依頼し、児童との交流の機会が確実に設けられ、恒例となっている。	住民の皆さんが児童の見守り隊の役目を担ってくれたり、夏休みの宿題お手伝いやボランティアに繋がるようになったら良い。活動場所の提供を地域と相談していくことで、地域の小学校とも交流し、交流の場を広げていく。
3	●物が買える環境、食事を選べる、入浴ができる	お金の計算、購入までのスケジュールを組み立て、見通しがたつように声かけをしている。入浴場面では、自立に繋がる練習、他者とのかわりの中で社会性が身に付けられる、ルールを身に付けることができる。	高学年が低学年のお世話をする、面倒を見る、共に過ごすことで生まれる相互作用が期待できる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●スタッフの支援スキルの向上について	福祉の現場がはじめてのスタッフが多いため、不適切支援にならないよう、個別ケース会議を適宜開催していく。	研修回数を増やす。なぜそのような行動になるのか、といった理解しがたい・目に見えにくい特徴や生きづらさに対するフォローを行う。障害特性への理解と説明を迅速に行うことで、安心して過ごせる環境となると思っている。
2	●自事業所だけでなく、他施設とのつながりが少ない	学年・世代に応じた活動場所を提供したいが、自施設だけでは敷地が狭く、トラブルもある。低学年がのびのびと走り回れる場所の確保が必要だと感じている。近隣の体育館や公民館などにも相談しているが、なかなか難しいのが現状。複数の学校へのお迎えと帰宅時間の関係も考慮し、多動な児童がいるとより手厚い配置は必要になってくるため、準備が重要。	予約がとれる場所の情報収集。他事業所からの情報収集を行い、「〇月の第〇曜日に仮押さえ」など確実に使用できる日を保障できるように進めていきたいと思う。
3	●保護者に対する個別面談は行っているが、ニーズはとて多い	子どもたちの支援が中心の日常だが、保護者支援も大いに必要。	限られた時間の中で保護者会等を行うという時間調整が療育に影響がでないような工夫。